

成果

- 取組を通じてキャリア教育の推進のポイント（発達段階での目標）を校種を越えて議論することができた。
- キャリア・パスポート（仮称）に書き込む内容を精選し、まとめて整理する時間を「編集の時間」と設定し、その時間の使い方について議論を深めることができた。
- 取組を通じて、教師が児童生徒の発達段階を具体的に捉えるきっかけとなり、また児童生徒の成長を実感しながら、具体的なアプローチができるようになった。
- キャリア・パスポート（仮称）の校種を越えた引き継ぎを通じて、小中高間のネットワークを構築することができた。

課題

- 「編集」に時間がかかりすぎると、全体的に活動時間が多くなりすぎるため、教育課程内にうまく収める工夫が必要。
- 学年間、学校間をまたぐ引継ぎをスムーズにするために運用方法の検討が必要。（保存方法や量について）
- 例えば途中で紛失した児童生徒に対しバックアップをどのようにするかをデジタル化することを視野に含め検討が必要。
- うまく書けない児童生徒へのアプローチの仕方など関わる教師の資質の向上。
- 保護者からのコメントに関して、どうしてももらえない場合の児童生徒とフォローする教師の負担。

